

「三方良し」の精神と歴史・文化の継承

群馬県みどり市 「三方良し」の会

はじめに

市内の大間々町には、「売り手良し、買い手良し、世間良し」という近江商人の「三方良し」の精神が根付いている。これは、「自分の利益だけを追求するのではなく、地域社会全体の発展に貢献することこそ、目指すべき本来の姿」という考え方である。当会では、その「三方良し」の精神及び歴史、文化を次の世代に伝えるために、大間々で概ね100年を超え、老舗の経営者8人が中心になって、平成22（2010）年3月25日に設立した。活動エリアは大間々町3丁目・4丁目を中心とした地区で、自分たちが生まれ育った町への愛着と誇りを感じてもらえるような下記の活動を継続的に行い、地域を愛する人たちの、世代を

超えたネットワークの構築に努めている。

活動について

具体的な活動については、まず「三方良し」の精神を象徴する歴史的事実を後世に伝える取り組みについて。大間々の町の半分が焼失



大火災顛末書

した明治の大火の際、近江商人の醤油醸造店・岡直三郎商店は、蔵にあった醤油85石（1升瓶で8500本分）を使って火を消し、町の半分の救った。加えて、火災で焼け出された212軒の家に見舞金を贈っており、その詳細な記録はこの町にとっても貴重な歴史資料である。三方良しの会では、三方良しの精神の象徴でもあるこのエピソードを語り継ぎ、大火災から130年目にあたる令和7（2025）年4月に、この史実を後世に伝えるためのイベントを実施した。

2点目が、「三方良しの井戸」の改修及び整備。「三方良しの井戸」は、岡直三郎商店が掘った井戸であるが、自らが使うのではなく、町の人たちに使ってもらうために掘った井戸で





三方良しの井戸改修

ある。その井戸も長い間に朽ち果て、その存在も忘れ去られていた。しかし、「三方良し」の精神の1つである「世間良し」のために掘られた井戸を後世に語り継ぎ、その精神の大切さを感じてもらうために、平成23(2011)年井戸を改修し、建屋を作り変えた上で、「三方良しの井戸」という看板を設置した。表通りから井戸までの路地には、岡商店で100年以上使っていた桶の廃材を再利用して敷き

詰め、「桶の細道」と命名して案内板も設置した。その際の作業に参加した子どもたちが大人になり、親になった時、彼らの子どもたち「三方良し」の大切さを教えてくれることを願っている。



幟の掲揚

3点目が、大間々の町を開拓した「大間々草分け六人衆」に関連した土蔵調査について。大間々を開いた草分け六人衆は、戦国時代末期の文禄2(1593)年、吹松野と呼ばれていた荒地を開拓し、大間々新田と称した。6人は大間々の町割りの原型をつくり、町の文化や経済を支えてきた。現在、六人衆の高草木家が所有する、嘉永3(1850)年の土蔵の調査を進めている。平成27(2015)年から調査を開始し、多くの貴重な資料を発見した。中でも、江戸時代の著名な書家・三井親和が揮毫した「牛頭天王御祭禮」の幟は、安永7(1778)年に和紙に書かれた縦7メートルの大作で大間々祇園祭の賑わいを彷彿とさせるものであった。和紙に書かれた書を白地の生地に染め上げて、令和6(2024)年の大間々祇園祭から毎年掲揚している。

4点目が、江戸時代から信仰を集めてきた



目の字奉納

「長澤薬師目の字奉納」の継続的な開催。長澤薬師は、「草分け六人衆」の1人、長澤家が代々管理してきた薬師様であり、古くから「め」という字を9つ書いて奉納すると眼病治療のご利益があると言ひ伝えられてきた。三方良しの会では、この風習を後世に伝えるため、毎年4月上旬の日曜日に大祭を実施、参道の整備や枝垂桜の植樹等の環境も整備し、小さな子どもから高齢者まで多くの人が集まるイベントになっている。

5点目が、常夜灯の里帰りについて。江戸時代、大間々の本町通り(旧あかがね街道)には堀があり、堀の中心には当時の商人たちが寄進した常夜灯が設置され、夜道を照らしていた。明治10(1877)年に堀は埋められ、常夜灯も撤去されたが、「三方良し」の会において、3基の常夜灯を133年ぶりに里帰りさせ、点灯式を挙行了した。その2年後、3年



案内看板

6点目が、案内看板及び、街路への三方良しのペナントの設置、街歩きマップ等の配布について。「三方良し」の町、大間々々を印象付けるような案内看板やモニュメントなどを町内20か所に設置、町内の街路灯には「あかがね街道大間々々宿」のペナントを設置して年に2回張り替えている。街歩きマップは観光協会や各商店などに置いて、来街者に町の見所な

後にはそれぞれの常夜灯の2000年祭を行い先人の功績を偲んだ。



常夜灯の里帰り

どを紹介し、楽しんで街を歩いてもらえるように工夫をしている。

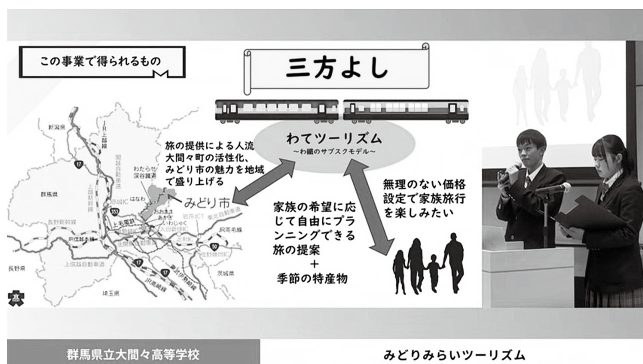
7点目が、空き家であった「旧小林眼科洋館」の改修・整備及び、地域のコミュニティ施設としての活用について。大間々駅前、停車場通りにおいて、長年空き家となっていた旧眼科医の洋館を「三方良し」の会が、所有者から譲り受け、令和3(2021)年より令和4(2022)年に改修工事を行い、令和4(2022)年3月に開所式を行った。現在は、地域のコミュニティ施設として活用している。今後は、大間々駅前という好立地を活かし、観光客が休日に気軽に入って休めるようなカフェ等としての貸し出しも検討している。また、「三方良し」の会が制作した絵葉書、写真集等の販売も行う予定。



旧小林眼科洋館

最後の8点目が、大間々高校生徒と連携しての地域活性化である。大間々高校美術部の生徒が制作した街中の旧家を描いた切り絵の展覧会を開いたり、街中美術館としてモデルとなった店の店頭に切り絵を展示した。また、大間々高校の井上浦造みらい塾が、「三方良し」の精神を盛り込んだ「わたらせ渓谷鐵道」をテーマにした「みどりみらいツーリズム」の提案は、令和5(2023)年「高校生まちづくりコンテスト」において、最高賞の「観光庁長官賞」を受賞した。

「三方良し」の会会長 松崎靖



大間々高校と連携